

# 私の決意



作野幸憲

一、ここにきて若手の台頭を望む市民の声が大きくなつたこと。

二、先に立候補表明されたお二人は年齢も近く、政策も似通つていてわかりにくく、このままの選挙では未来を託す市長選挙としては、

あまりにも選択肢が少なすぎること。

三、五年後、十年後の安来の将来を見据え、

今まさに柔軟な思考力【Smart(スマート)】が必要であること。

安来市の財政は今、崖っぷちです。そして人口減少も依然歯止めがかかりません。まずはこれらをどう解決するか、そして未来の安来市をどうするかなどをこの選挙を通じて戦わしたいと考え、立候補することを決意しました。

## プロフィール

家族構成/妻、父、長女、次女の5人家族  
生年月日/昭和33年5月3日生  
血液型/AB型  
趣味/スポーツ(マラソン、ソフトボール)

昭和46年 安来市立能義小学校卒業  
昭和49年 安来市立第二中学校卒業  
昭和52年 島根県立松江南高等学校普通科卒業  
昭和58年 國學院大学経済学部経済学科卒業  
平成 2年 衆議院議員細田博之公設秘書  
平成11年 島根県議会議員選挙出馬(安来選挙区)  
平成21年～ 安来市議会議員(3期)  
令和2年9月 安来市議会議員 辞職

## 現 職

●安来市土地改良区理事 ●安来地域交通安全活動推進委員 ●能義地区人権・同和教育推進協議会会长 ●沢宮農組合組合長 ●安来市ソフトテニス連盟顧問 ●安来市陸上競技协会会长 等

## 元 職

●安来市議会副議長 ●安来市社会教育委員の会会長 ●島根県・安来市教育委員会特別非常勤講師 ●安来市PTA連合会会长 ●安来市立第二中学校PTA会長 等

## 作野幸憲後援会規約(抜粋)

- 1.名称… 本会は、作野幸憲後援会と称する。
- 2.目的… 本会は、作野幸憲氏の政治活動を後援し、作野氏とともに明朗で清潔な住みよい社会づくりを行うことを目的とする。
- 3.事業… 本会は、その目的達成のために、講演会、研究会などの開催、印刷物の発行、その他必要な事業を行う。

## 後援会事務所

〒692-0053 安来市沢町85番地2  
TEL.0854-22-2853  
FAX.0854-22-6949  
E-Mail : info@sakuno.net

[ホームページ](#) [ブログ](#) [Twitter](#) [Facebook](#) [作野](#) [検索](#)

応援・支援メッセージをお寄せください。

【討議資料】



さくの ゆきのり

作野幸憲

# 作野幸憲の主な政策

## 一、2025年危機の回避

2025年危機の回避とは、早急な財政の立て直しのことです。安来市は現在基金に頼つて財政運営をしていますが、昨年示された財政計画では2025年にはすべての基金が枯渇するとなっています。それを回避するためには、回避するための財源確保が急務です。そこで現在休止状態の新工業団地整備の中止を含めた見直しをします。

## 二、市立病院について

安来市財政に大きな負担となっている市立病院の今後については、今まで利用していただいた方のことも考え、規模を縮小し最低限の形で残します。

## 三、「デジタル田園都市やすぎ」の実現

これは新しいものと古き良きものとの融合です。デジタルとは新しい技術の象徴、田園とは安来市の原風景。そして違う視点からは、デジタルは工業、田園は農業です。つまり安来市の基幹産業を表してもいます。

コロナ禍の中、社会全体がデジタル化に向けて動いています。人口減少や高齢化などによる人手不足を解消するためには、様々な分野でデジタル社会に対応したまちづくりが必要です。

●行政改革では、ペーパーレス会議の導入やAIなどを使った業務の自動化・効率化などを推進します。

●農林業・土木建設分野では、スマート農業に駆使されているICTに加え、来年度、能義平野に設置予定の高度GPSアンテナを、農業はもちろん土木建設業にも活用の幅を広げていきます。また林業でも最先端の技術を導入し、これらの分野で人手不足や生産性の向上や効率化を図っていきます。

●医療・介護分野では、国が推進するローカル5Gなどによる遠隔診療の実現や最新機器を使った介護予防のためのヘルスケアの促進も図ります。

●教育分野では、Gigaスクール構想が始まり、こども一人に一台ずつ端末が準備されるので、これをしっかりと利活用します。またスポーツではICTやスマホのアプリを使って、競技の向上を図るとともに、市民の健康増進を図ります。

## 五、企業誘致対策

いわゆる線引きの廃止です。

市街化区域は用途地域として継続し、市街化調整区域は田園居住地区と特定沿道地域に分けるなどし、特定沿道地域例えは9号線沿線の地域でも工業施設などが進出できるようになります。

廃止までには最低四～五年はかかりますが、工業・商業分野の課題解決にもつながりますし、雇用の場の創出や安来市の活性化のためにもなるので、早期の実現を目指します。

●観光分野では、ICTをはじめ様々な方法で情報発信をし、清水寺や月山富田城、加納美術館などへの誘客を推進します。そのためにはビジネスホテルの誘致も積極的に検討します。

これらの政策はハコモノを建てる考えると、少ないお金でできますので、財政難の中でも実現可能です。また若い人材を安来市に呼び込むことができる政策にもつながります。

## 四、中山間地域対策

私は安来市の大型圃場整備の先駆けとなつた沢営農組合で組合長として農業をしています。恵まれた平場でも特に夏場の草刈りは大変です。ましてや法面が多く、急斜面での作業が強いられる中山間地域では、危険も伴い重労働です。

そこで自動運転の法面草刈り機などの導入を積極的に行ったり、小さな拠点づくりのモデル地区に指定された地域もあるので、どこかの場所で、自動運転の小型バスの実証実験などを誘致します。

また特定地域づくり事業いわゆる細田法案を利用して、高齢化と人手不足が特に進んでいる中山間地域に人材を派遣します。

